

つながる心

君たちにとって家族はどんな存在ですか

冬休みはいつもの休みよりも、家族と過ごす時間が長かったと思います。そんなことを考えて数学の冬休みの宿題も、「家の手伝いをする」にしました。因みに宿題はしっかりできたでしょうか。道徳でも「家族愛」をテーマにした授業を行います。休み中に家族と接していて、君たちは何を感じたでしょうか。家族はいるのが当たり前だから、何も感じないという人もいるかもしれませんが、今回は家族について考えてみたいと思います。

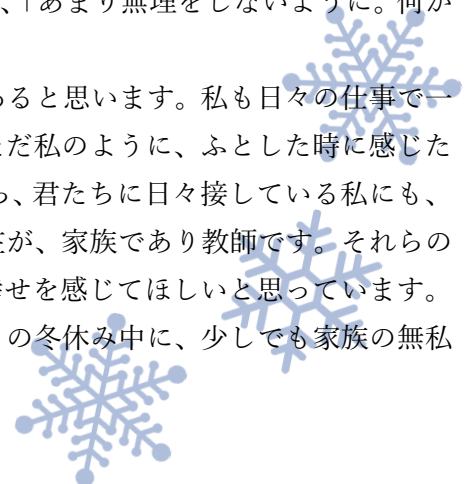
私の父親は事情があって、ほとんど家にいませんでした。そんな私に対して常に母は、「無私の愛」をもって接してくれました。例えば私が高校生の時も、必ず毎日その日の朝早くに炊いたご飯で、弁当を作ってくれました。反対に母はいつも前の日の残りご飯で、朝食を済ませていました。それを見て何度も、「弁当は前の日の残りご飯でいいから。」といくら母に伝えても、卒業するまで炊きたてのご飯の弁当は変わりませんでした。そのことを思い出すだけで、今も母に対する感謝の気持ちでいっぱいになります。

昨年、小松川三中の頃の教え子たちと会った時に、母が合唱コンクール(当時は真澄祭と呼んでいました。)に来るといふ噂が、生徒の間で広まったことがあったと聞いて驚きました。ただ実際に3年生の担任をしていて、卒業式が終わって退場するときに、母を見かけて驚いたことがありました。その後、私に内緒で同僚の先生が、母を卒業式に招待してくれたことを知りました。私が教師になったことを、誰よりも喜んでくれていた母は、ハンカチで目頭を押さえながら、私の姿を見つめてくれていました。

そんな母が亡くなって、早10年以上の月日が経ちました。母は小学5年生の次女の顔を見たことがありません。だから家族で正月に母のお墓参りに行くのが、我が家の恒例行事になっています。墓石に手を合わせる家族を見て、母が何を感じているか分かりませんが、私は今も、「無私の愛」に対する感謝の気持ちを伝えるために、墓石に手を合わせています。

以前ある教え子と話をしている、私の母のように一人で働きながら子育てをする大変さを、痛切に感じたことがありました。その時、「子供がいるのといないのでは、どちらの方がいい?」と聞きました。それに対してすかさず、「いた方がいい。」と答えたその時の表情を見て、なぜかその教え子が菩薩様のように感じました。そして、甘いものがいっぱい詰まったレジ袋を片手に、家に向かう教え子を見て、「あまり無理をしないように。何かあったら何時でも愚痴を聞くから。」と言って別れました。

親が生きていることで精一杯で、なかなか子供に手をかけられないご家庭もあると思います。私も日々の仕事で一杯で、娘たちに十分な愛情を注いでいるとは、とても人前で言えません。ただ私のように、ふとした時に感じた親の無私の愛を、子供は一生覚えています。それは、親の代わりと思いながら、君たちに日々接している私にも、同じことが言えると思います。生徒が「無私の愛」を感じる一番身近な存在が、家族であり教師です。それらの人との関わりを通じて、「無私の愛」を注いでくれる、併せて注ぐ人がいる幸せを感じてほしいと思っています。そんなことを、久々に長い時間家族と共に過ごして感じました。君たちがこの冬休み中に、少しでも家族の無私の愛に気づいてくれたらうれしいです。



来週の予定

15日(月)	16日(火)	17日(水)	18日(木)	19日(金)
・ 全校朝礼	・ 専門委員会 ・ 展示発表会実行委員会			・ 避難訓練 ・ 英語検定 ・ 子どもを笑顔にするプロジェクト⑤ ・ 江戸川っ子 study week!(終)

